

## カクレミノ

- 別名 ミツデ
- ウコギ科
- 本州の千葉以南、沖縄までに分布する。  
本県でも植えられている。
- 常緑広葉小高木 高さ 2～3 m



### (特 徴)

枝は太くて緑色。葉は互生し広卵形の6～12cmの大きさと、若木の葉先は2～5裂し成木すると全縁の葉も混じる。7～8月に淡い黄緑色の小花が咲き、秋に黒熟します。

適潤地を好み、生長はやや遅いが、日陰に強い陰樹。大気汚染にも強く、せんだに耐えるので庭木としても愛用されます。

### (扱い方の要点)

暖地系の植物であり、植え付けは5～9月がよい。

腐植質の富む肥沃な適潤地がよい。日当たりのよいところがよいが、日陰でも育つ。日陰では葉量が少なくなります。

枝をよく分岐し、自然に樹形を整える。植え付けは1～2mほどの枝のないものがよく利用されます。

2～3年に一度、大きく切もどして萌芽を育ててゆくとよい。

### (病 虫 害)

乾燥気味のところは、黒斑病、カイガラムシの発生があり、マンネブダイセンM水和剤、石灰硫黄合剤の散布を行います。

### (育て方のポイント)

生育中は水分を好み、冬の乾風を嫌い、風当たりの強いところは雪囲いを行う必要がある。枝が密生すると細かい枝が枯れるので、早目に枝抜きして通風をよくしてやります。

### (利 用)

建物の北側、玄関わき、手洗いの目かくし、中庭など、狭い場所の日陰の利用によい。狭い日当たりの悪い中庭によく似合います。

## キンモクセイ

- モクセイ科
- 中国原産で、東・東南部以南、四国、九州に植栽されている。
- 常緑広葉中高木 高さ5～7m



### （特 徴）

葉は硬く、だ円形で、縁に鋸歯があるものが多い。雌雄異株。日本に植えられているのは雌樹で花がつく。

適潤な肥沃地によく育ち、生長はやや遅い。大気汚染に弱く、花が咲かなくなる。刈り込みに十分耐えます。

仲間にギンモクセイがあります。

### （扱い方の要点）

植え付けは、小苗は4～5月、大きいものは5月、7～10月に植える。夏以降の植え付けは、枝を多く切るため、その枝が充実しないうちに開花期に入るので花は少なくなります。

植え付け場所は日当たりのよいところがよい。日陰地でも育つ。

モクセイ類は、自然でも円形の形を作るから放任してもよいが、狭い庭では刈り込みを繰返して小さく仕立てます。刈り込みは10月の花後か、3～4月に強く切らないで毎年実施します。

### （病 虫 害）

葉が密生して風通しが悪くなり、カイガラムシ、ハダミの発生が見られ、スミチオン、機械油乳剤などで駆除します。

### （育て方のポイント）

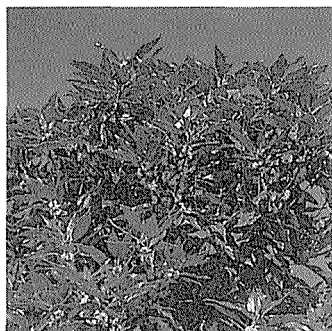
8～9月の乾燥に強い。富山県では海拔400mくらいまでが利用できる。寒い風の吹きさらしを防ぐために雪囲いが必要です。

### （利 用）

秋を飾る樹として庭や公園に多く取り入れられ、雪国である富山に冬の緑として貴重な樹である。生垣の利用については、幅が広がるので狭いところはむりです。

## ゲッケイジュ

- 別名 ローレル
- クスノキ科
- 地中海沿岸の原産で、本州、四国、九州に植栽されています。
- 常緑広葉中高木 高さ 6～10m



### (特 徴)

葉は長だ円形で濃緑色。革質でつやがあり、枝葉に芳香があります。雌雄異株、4月に淡黄色の小花が集まって咲きます。植栽は雄株が多く雌株が少ない。果実は10月に大きさ1cmのだ円形暗紫色のものがつきます。

耐陰性があり、生長も早く萌芽力があり根元からやごがしやすい。潮害、大気汚染にも耐えます。

### (扱い方の要点)

暖地系の植物であり、植え付けは4～5月、7～9月で適地は、排水のよい肥沃な湿潤地で風が当たらないところがよい。

### (管理と手入)

生長がよいため雪害により枝折れの発生があり、放任樹形もよいが、円筒仕上りがよい。萌芽力が強いので刈り込みを行ったほうがよい。整枝は、4月中旬か10月中旬に行います。

### (病 虫 害)

うどんこ病、ハマキムシ、カイガラムシが発生する。うどんこ病は6月の新梢の生長期に発生するので、カラセン水和剤を10日おきに2～3回散布し、ハマキムシ、カイガラムシは、6月中旬よりディプテレックス乳剤を2～3回散布して駆除します。

### (育て方のポイント)

冬の寒い風を嫌うのでこれを防げるような場所に植えます。生長が減退してきたら施肥と客土をしてやります。樹形が乱れたら思い切って剪定をします。

### (利 用)

刈りこみできるので、球形、だ円形、円筒形などに仕立てると見事になります。生垣もきれいになります。

日陰にも強いので、日陰用の木としても利用できます。

葉は乾燥して、肉料理の臭みとりに利用されます。

## サザンカ

- ツバキ科
- 日本に生まれて育った日本特産の花木で、多く植栽されています。
- 常緑広葉小高木 高さ5～15m



### （特 徴）

冬枯れの庭に数少ない彩りを添えてくれる。10～12月頃、枝先に径4～7cm花を開き、花弁は5枚で平に咲きます。花色は豊富。

ツバキと違って花びらから散る。葉は革質のだ円形で互生し、長さは3～7cmで、ツバキより小さい。下面の脈上や葉柄、小枝に毛があるのでツバキと区別できる。

### （扱い方の要点）

日陰でもよく育ち、大気汚染、潮風に強く強健な木。自生地は水はけのよい湿潤地が多いので、植え付け場所は有機質に富む、やや粘質のところがよい。乾燥するところと乾風のあたるところは避けた方がよい。

### （管理と手入れ）

植え付けは、サクラの開花が終わるころから9月までがよいが、できれば新梢の生長期を除いた方がよい。

鉢植の場合は植え付けのとき、根鉢の土と植える場所の土が異なる場合は根鉢の土を落として植えた方がよい。植え付け後十分灌水をします。

仕立て方は、放任する場合と刈込んで仕立てる場合があり、刈り込みする場合は、花後から4月までの間に目的の形に切って整枝し、とくに徒長した枝を切る程度とします。萌芽力が旺盛なのでいろいろな形に仕立てることができます。

### （病 虫 害）

虫は、6月と8月にチャドクガが発生するので、ディブテレックスかスミチオン乳剤で駆除します。病気はもち病が5～6月頃に発生するので冬期に石灰硫黄合剤かダイセン水和剤を2回ほど散布して予防します。発生枝は切って焼却します。

菌核病については、蕾が開きかけたころ、蕾が落ちたり、花に褐色の斑点ができる場合は枝を切って焼却します。

### （利 用）

庭への単植、目かくし垣、生垣など用途が広い。鉢植、盆栽も可能であり、テラスやベランダでも楽しめます。

雪で緑の少ない富山にとっては、耐雪、耐寒性にも優れた冬の樹木の一つです。

### (その他の種類)

一般にサザンカの改良種（サザンカ群）や、ヤブツバキの交雑種（ハルサザンカ群）、カンツバキの交雑種などがあります。

- 品種としてはフジノミネ      花が白色八重咲き。
- オトメサザンカ              花は灰色八重咲き。
- カンツバキ（シシガシラ）   紅色八重中輪。11～2月に咲く。
- ショウワノサカエ           樹形が立つ。
- ハルサザンカ                2～3月頃に花が咲く。

## Q & A

Q、ナンテンが大株になってしまった。株分けできないか。

A、ナンテンの株分けは簡単です。4月中旬～10月上旬までができます。高さが高すぎるときは、1 m内外に切りつめて植えます。2～3年後に実がつくようになります。

分けるときは1株に3～4本の幹をつけて分けます。

## ネズミモチ

- 別名タマツバキ
- モクセイ科
- 本州中部以南、四国、九州と沖縄、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉小高木 高さ4～7m



### (特徴)

葉は革質で対生し、だ円形、長さ4～7cm、全縁で先が尖り光沢があります。6月に多数の小白花が円錐花房をなして咲きます。果実は長だ円形で秋に紫黒色に熟す（ネズミの糞に似ている。）。

日陰に強く、萌芽力があり、生長も早く土地を選ばない。刈り込みにも耐え、枝がよく茂り病虫害にも強い。また潮害にも強い。

### (扱い方の要点)

常緑樹なので、植え付けは暖くなったサクラの花の終わったところから10月下旬まで扱いが容易である。放任すると相当繁茂するので刈り込みをします。

### (管理と手入れ)

とくに萌芽力が強くよく伸びるので、たびたび刈り込まないと樹形を保てない。刈り込みは厳寒期を除いていつでもよい。

### (病虫害)

苗木や新梢にうどんこ病が発生することがあるので、カラセン水和剤を10日おきに数回散布します。

### (育て方のポイント)

乾燥の激しいところは灌水すると効果がある。

枝が密生すると、細枝が枯死するので整枝して枝を整理します。

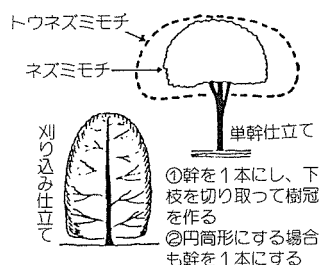
仕立て方は一本仕立てか、数本による株仕立てかをきめて枝を整枝します。

### (利用)

鑑賞価値は他の樹種より劣るが、萌芽力や耐陰性もあり、刈り込みが可能で、防風、防火、目かくし用生垣や境界植等にも適しています。

トウネズミモチは、枝葉が大きく高木性なので公園などによい。

#### ★仕立て方



## ヒサカキ

- ツバキ科
- 本州東南北部以南、四国、九州に分布します。
- 常緑広葉小高木 高さ 2～3 m



### (特 徴)

樹形は直立型であるが整わない。葉は暗緑色、革質でつやがあり径 3～5 cm で縁に低い鋸歯がある。花は葉のまわりに群がって咲くがあまり大きくなく、秋に黒熟します。

富山では、神社の神事用に使われるので、神社や庭にも多く植えられています。

また、海岸地方の日当たりのよい尾根筋に多く自生している一方、林内の下木として自生しています。

### (管理と手入れ)

植え付けは、5月、7～9月がよい。腐植に富んだ肥沃地、半日陰がよい。刈り込みは、7月と11月がよいが、必要に応じて枝を切ったりするので、整形の場合もこの時期に行う。

### (病 虫 害)

カイガラムシとすす病が発生します。風通しをよくすることと、冬期、機械油乳剤または石灰硫黄合剤を、6月からのふ化期にデナボン水和剤50を10日おきに2～3回散布します。

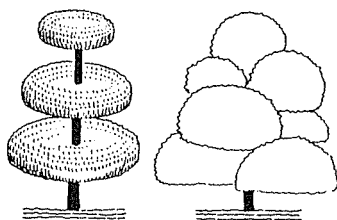
### (利 用)

サカキはサカキ属、ヒサカキはヒサカキ属と異なるが、一般的に庭木としてはヒサカキを多く使います。

サカキは、萌芽力がないが、ヒサカキは萌芽力があり、刈り込みができるので庭や生垣などにも使えます。

庭に1本あってよい木です。

ヒサカキの刈り込み例



- ①サカキはなかなば放任状態に仕立てる。  
②ヒサカキはいろいろな形に仕立てられる。このような仕立てものは年2～3回刈り込みを行う。



## コノテガシワ

- ヒノキ科
- 中国原産で、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉小高木 高さ 4～7 m



### (特 徴)

葉は直立した枝から密生し、表裏がはっきりしない鱗片状をしている。陽樹で生長はやや遅く、適潤地を好む。刈り込みにも耐える。

### (扱い方の要点)

中国産の木であるが、日本に古くから定着し普及している。自然に樹形を保つ。植える場所は日当たりのよい適潤地。冬期は雪囲いをして樹形を保つようにします。

### (管理と手入れ)

とくにせん定、整枝の必要はない。肥料ぎれすると葉が黄色となり落葉する。枝もあらかくなるので春先に鶏糞、化成肥料を与えるとよい。

### (病 虫 害)

風通しの悪いところは、アブラムシ、カイガラムシが発生するので、ディプテレックス乳剤かスミチオン乳剤を散布する。

### (育て方のポイント)

とくにないが、肥料ぎれに注意する。乾燥を防ぎ敷ワラを敷いてやる。日が十分当たるようにしてやるのが大切です。

### (利 用)

単植、列植、群植もできるし、洋風建築、芝庭、道路、公園などに広く利用できる。

矮性のものは鉢植もできます。



## ウメモドキ

- モチノキ科
- 本州、四国、九州などの山地に自生する。
- 落葉広葉低木 高さ2～3cm。
- 代表的な小鳥の給餌木です。



### (特徴)

晩秋に細い枝いっぱいに赤い実をつけます。果実は5mmの小球形で美しい。雌雄異株。6月ころ淡紫白色の小さな花卉がつきます。葉は互生、長だ円形、長さ4～8cmで縁に細かい低鋸歯があり、両面に細かい毛があります。

### (扱い方の要点)

樹勢が強く、とくに土質を選ばない。しかし日陰では実つきが悪いので、日当たりのよい場所を選びます。

植え付けは、10月から翌年3月までの落葉期間中がよく、根が非常に細かいので、根部を湿潤に保つと生育がよい。

### (管理と手入れ)

樹形をよく整えるので、とくに整枝の必要はない。

やせ地では花つきが悪くなるので2月と9月に油粕と化成肥料を1～2握りを根元にやり、敷ワラを敷くようにします。

### (病虫害)

とくにない。

### (花つきをよくするコツ)

雌樹であれば、日陰でない限り花芽のつかないことはない。植えた株が雄株だった場合は、よび接ぎか、切り接ぎをして結実させるようにします。

### (利用)

庭の単植のほか、玄関わき、池の端に使い、鉢植え、盆栽などのほか、生花材料としても利用できます。

### (その他の種類)

- ・キミノウメモドキ 果実が黄色。
- ・シロウメモドキ 果実が白色。
- ・コシヨウバイ ウメモドキの園芸種で、木も小さく実も小さいが密に着果し盆栽によい。
- ・フウリンウメモドキ 赤い実が細長い柄の先について垂れ下がる。

## オオデマリ

- 別名 テマリバナ
- スイカズラ科
- ヤブデマリの園芸種である。
- 落葉広葉低木 高さ2～3m

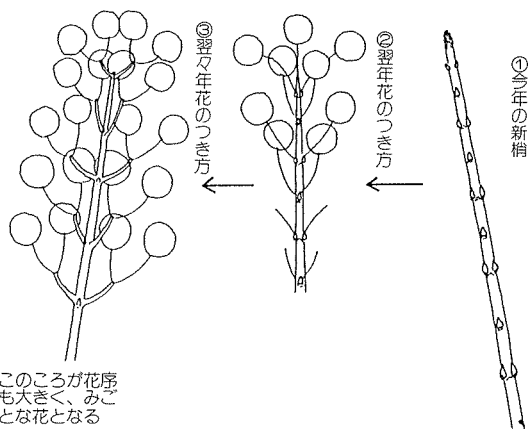


### (特 徴)

アジサイを小型にしたような形をした、白い装飾花をつけます。葉は対生で、丸形で鋸歯があり、葉の表面に脈がしわになっています。

### (扱い方の要点)

寒さを嫌うが、富山ではとくに影響はない。樹勢は強健で大低のところでよく生育する。植え場所は腐植質の富んだ湿潤地がよい。日当たりがよいが半日陰でも育ちます。しかし、やせ地や極度の乾燥はきらいです。



古い枝は、花が小さくなるので3年ぐらいで枝を切った方が花がよくなります。整枝は枝の途中で切ることを避け、付け根から切ります。春先新芽の出る前に大枝を切り、花の終わった直後にかかるい整枝をします。

### (病 虫 害)

アブラムシがつく程度で、発生したらマラソン乳剤を散布すればよい。

### (育て方のポイント)

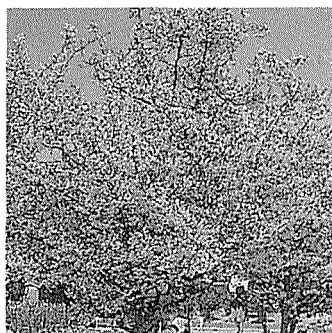
ふやし方は挿し木、取り木、株分けなどします。挿し木は前年枝を15～20cmに切って、春先きに挿せばよい。

### (利 用)

この仲間の水揚げが悪いので切花には向かない。庭木として単植が映えます。

## ハナカイドウ

- バラ科
- 中国原産。花は薄紅色、半八重で素晴らしく美しい。中国ではボタンとともに美しい花の双壁とされています。
- 落葉広葉中高木 高さ3～7m
- 本州、四国、九州に植栽されている。



### (特徴)

花は5月、リンゴと同じ時期に開花する。樹形は不整形になりやすいので、せん定をして形をつくる。日当たりのよいところがよい。

比較的寒いところでも育つ。とくに夏は涼しいところがよい。土質は排水のよい腐植に富んだ肥沃なところがよい。果実は小さい。

### (管理と手入れ)

あまり大木にならずせん定がきくので、狭いところでも育てることができるので主木として用います。

### (病虫害)

病虫害の多い木であり、防除の徹底をはかります。うどんこ病、腐乱病は被害部を取り焼却します。防除はトップシンMペーストを散布する。

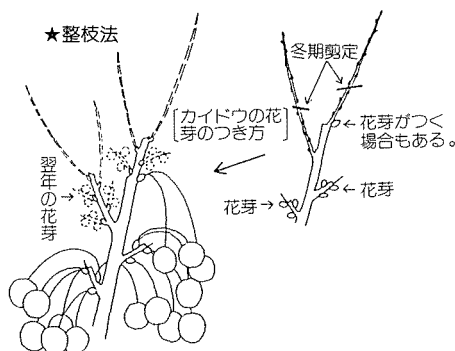
黒点病、斑点病にはボリノックスを散布、アブラムシにはキルバール、ハダニには、ダニの種類によって効果のある殺ダニ剤を散布します。

### (利用)

樹形の悪さから、あまり公共的な植栽には向かないが、庭に植えて、花の美しさを楽しみ、鉢植、盆栽などにもできる。庭に1本欲しい木です。

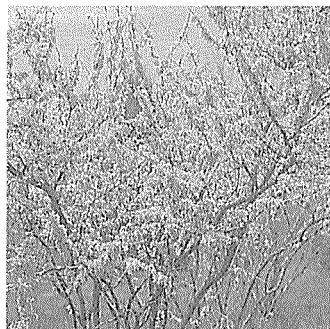
### (その他の種類)

- ナガサキリンドウ (ミカイドウ) 中国原産、長崎に渡米したのでその名がつく。  
花は上向き、果実は大きい。
- オオナガサキズミ (ホンカイドウ) 花の直径5cmと大きい。
- ズミ 本州中部以北にみらる野生種、白い花。秋には紅い果実が沢山つく。



## ハナズオウ

- マメ科
- 中国原産。北海道、本州、四国、九州に  
植栽されています。
- 落葉広葉中高木 高さ 3 ～ 5 m



### (特 徴)

枝が根元から分枝して上に伸び、ホウキ状の樹形になります。

4 月ころ、葉に先立って紅紫色の蝶形の小さい花をびっしりつけます。

葉は互生し、ハート形で長さ 5 ～ 10cm、葉縁に鋸歯がない。

### (扱い方の要点)

樹勢は強い。あまり土地を選ばないが、日陰は花つきが悪くなるので日当たりのよいところを選びます。

耐寒性が強い。植え付けは秋植えがよい。

### (管理と手入れ)

整枝はとくに必要ないが、根元からやごをたくさんだして株立ちとなるので、幹を早目につくようにするとよい。

整枝は、冬期間がよいが、花芽ができていますので、混みすぎた枝や樹形を乱す枝をはずすようにします。

### (花つきをよくするコツ)

日陰は花つきが悪くなるので日当たりのよい場所へ出してやる。8 月以降は整枝せん定はやめましょう。

### (病 虫 害)

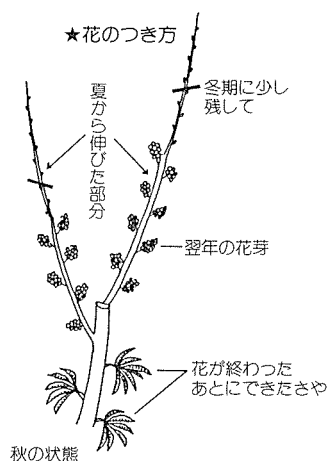
とくにない。

### (利 用)

庭木によい。鉢植えはできるが盆栽仕立てはむづかしい。切花にもできる。

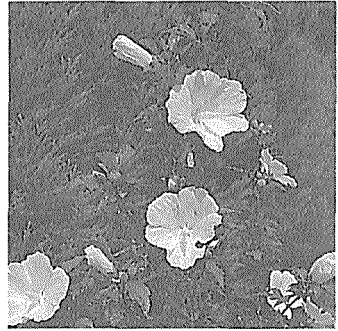
### (その他の種類)

- ・ シロバナハナズオウ 花は白色。いくぶん花が小さい。
- ・ アメリカハナズオウ 小高木となり花色がうすく、花は小さい。  
花は、太い枝にもかたまってつく性質がある。



## ムクゲ

- 別名 ハチス
- アオイ科
- 中国原産。北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 落葉広葉大低木 高さ3～4 m
- 韓国の国花



### (特 徴)

7月中旬ころより9月いっぱい、つぎからつぎと咲き続ける夏の代表的な花木です。花は紫紅、桃、白、紫色五弁花で5～6 cmの花が咲く。花色も多く、八重のものもある。葉は互生し卵形長さ4～10 cmで3裂し、縁にあらゐ鋸歯があります。非常に花つきのよい木であり、よほどのやせ地や日陰地でない限り注意を要することはない。

### (扱い方の要点)

総体的に強健な木であり、日当たりさえよければ土質をあまり選ばない。植え付けは4月中がよい。植え付け後はあまり手がかからず自然に形をつくってくれます。

### (管理と手入れ)

とくにない。

### (病 虫 害)

丈夫な木なのであまり病虫害の被害がないが、アブラムシが発生したらマラソン乳剤で駆除します。

### (利 用)

育てやすいので庭木のほか鉢植か生垣にも使用できます。花は一日でしおれるので切花には不適です。

### (その他の種類)

- ・ヤエムクゲ 花が紅紫色の八重の花が咲く。
- ・シロバナムクゲ 花は白色
- ・シロヤエムクゲ 花は白色の八重
- ・ヒノマルムクゲ 花が白く花弁の下部が赤色
- ・その他園芸種で、高さ30～50 cmの矮性のものもあり鉢植えによい。

## Q & A

Q、ウメの花を咲かせるにはどうすればよいか。

店で買ってきたときは、素敵な花が咲いていたが今年は咲かない。去年満開だった庭のウメが枝ばかり伸びて全然咲かないということがあります。

A、ウメの花芽は、春から伸びた枝が梅雨から盛夏にかけてできます。この後成熟して翌春花になります。

元気のよい枝には花はつきません。ほぼ20cmくらいで生長の止まった枝(中・短果枝)によくつきます。

その中、短果枝をつくるには、花ウメなら花の終わった直後、実ウメなら12月から翌年1月に剪定するが、切り残した枝の先端の芽が上向きにならないように切ります。

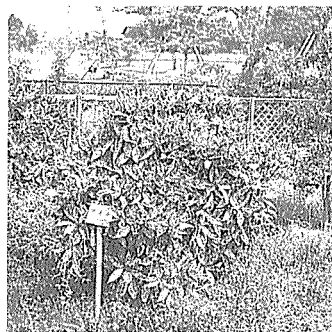
また、分化期に水が多すぎると花芽がだめになり、葉がしおれるくらいがよいのです。

花芽がつき充実させるためには、リン酸、カリ肥料を入れ、油粕以外にも骨粉を入れることが大切です。

真夏になると、中・短果枝の葉の付け元に粟状の小さな粒が2～3個かたまってしまう。こうなったらあとは水を十分にやることです。

## アオキ

- 別名 アオキバ
- ミズキ科
- 本州、四国、九州、沖縄に分布する。
- 常緑広葉低木 高さ1～2 m



### （特 徴）

株立ちとなり、枝は太く緑色。葉は対生して深緑色で革質、雌雄異株。3～4月に紫褐色の小花が咲き、翌春に円形の果実が赤く熟する。変種のヒメアオキは、北海道、日本海側に分布し小型である。

### （性 質）

耐陰性強く陰樹。適潤地を好み、大気汚染に強い。

### （扱い方の要点）

常緑樹で広葉のため水分の蒸発が激しいので、4月中旬から10月までが植え付けの適期であるが、真夏を避けた方がよい。

植え場所は、半日陰の腐植質の富んだところに大きめの穴を掘り、腐植質のものを多く入れ土壌水分を高めます。根のよくない場合は、枝抜き葉を落として、木を植えるときに十分水を入れて水ぎめとします。施肥は通常では必要がない。

### （病 虫 害）

病気もみられるが、とくに気にすることはない。アオキは日陰か風通しの悪いところに使われている木なのでカイガラムシが発生する。すす病を誘発し葉が汚れているので、枝抜き風通しをよくしてやります。スミチオン乳剤などを6月末から2～3回散布します。

### （育て方のポイント）

乾燥や、強い日差しを嫌うので、半日陰のところがよく、風当たりの強いところは葉を傷め葉が黄緑色になることがあります。

### （利 用）

身近に多く自生していて珍しくないが、年中かわらない緑と赤い実をつけ、建物の北側、下木として利用しやすい。

アオキには、枝のあらいものと、枝の密生したのものとあり、庭木としては枝の密生したものがよい。また、雌雄異株であるので、雌樹を植えないと実がつかない。

## イヌツゲ

- 別名 ヤマツゲ
- モチノキ科
- 本州、四国、九州に分布する。
- 常緑広葉小高木 高さ3～5m



### (特 徴)

葉は1.5～3.0cmのだ円形か円形で互生し、縁に小さく鋸歯がある。雌雄異株。6月に淡紫白色の小花が咲く。果実は円形で秋に黒熟します。陰地や陽地にも耐え、土地を選ばない。生長が遅い。刈込みに強く、公害にも強い。

### (扱い方の要点)

年中植え付けできるが、4～6月、10月がよい。植え場所は、日当たりのよい肥沃地がよい。日陰でも育つが、葉が落ちる。

肥料ぎれすると、冬期に葉が落ちる。3月、7月、9月に溝を掘り、堆肥、鶏糞、化成肥料を2～3年やれば回復します。

### (病 虫 害)

初夏に、ハマキムシ、シャクトリなどが発生するのでマラソン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

刈込みは一度に強く刈ると枝枯れをするので、伸びたら少しずつ刈るようにします。伸びすぎて樹形のくずれたものは、大きく切りもどし新しい芽を咲かせて仕立直す。

仕立て方は、丸刈り、散らし玉仕立てなどができ、基本に沿って刈込んでいく。刈込みは3～10月の間に随時行います。

### (利 用)

曲げ物仕立てで玄関わき、根締め、生垣にも使えます。

### (その他の種類)

- ・ツゲ (ホンツゲ) ツゲ科のもので、材はよい。クシなどに用いられる。葉つきがあらく大きいので庭には向かない。



## ウツギ

- 別名 ウノハナ
- ユキノシタ科
- 北海道、四国、九州、中国に分布する。
- 落葉低木 高さ1.5～2 m
- 旧暦四月（卯月）に開花することから卯の花という。



### （特 徴）

5～6月頃、白色の五弁花が総状花房をなして咲く。小枝の先に円錐状に花がつき満開時は美しい。

ウツギは大きくなるが、ヒメウツギは1 mくらいで枝が下垂する。

### （管理と手入れ）

庭木に適し、植え場所は日当たりのよい肥沃地がよく、樹勢が強健だか、やせ地では十分な生育が望めない。

植え付けは、落葉期に行い、堆肥又は腐葉土を十分入れて植えます。花は前年枝の枝から萌芽した新梢につくため、切りつめると花が望めないので、春先から伸びた枝は切らないようにします。

放任すると、枝が伸び乱れるので3～4年の古枝は根元から切ってやればよい。

### （病 虫 害）

うどんこ病が6～7月頃発生しやすく、発生した場合は、カラセン水和剤を散布し、さび病は夏期に発生するのでダイセン水和剤を2～3回ほど散布します。アブラムシがよく発生するので、マラソン乳剤かスミチオン乳剤を散布します。

### （利 用）

和、洋どちらの庭にもよく似合う。芝庭でも利用しやすい。

秋には落葉するが生垣としてもよい。

- ・名前の由来 ウツギは幹が中空なため。ウノハナはウツギの花の略。

## キョウチクトウ

- キョウチクトウ科
- インド原産で、本州東北地方以南に植栽されている。
- 常緑広葉大低木 高さ3～4m



### (特徴)

葉の形が竹の葉に似ており、花は桃の花にたとえて名付けられたものです。夏に香りのある紅色や白色の八重の花をつけます。代表的な夏の花です。

葉は革質で厚く、長さ7～15cmくらいになる。葉は有毒なので注意します。

### (扱い方の要点)

寒さに比較的強い常緑樹であるが、マイナス10℃近くになると地上部が枯れて、翌年根元から株立状となって枝がでてきます。

寒冷地では、寒暖を繰り返すので大木にならないで中低木の株立状となります。雪の多いところや、寒風のあたるところは雪囲いが必要です。

土質をあまり選ばないが、乾燥ぎみのところがよい。根付いてしまえば樹勢は強い。ばい煙や大気汚染に非常に強い。施肥は不要です。

### (管理と手入れ)

放任すれば大きな球状の形になる。枝葉が四方に張るので相当の面積を必要とする。幹は放っておくと株立状となるので早い時期に整理する。萌芽力が強く、どこからでも芽吹きするので細い枝を整理します。整枝の時期は4月下旬頃までに行います。

### (病虫害)

キョウチクトウにだけつく、アブラムシが発生したらマラソン乳剤を散布します。

### (利用)

洋風の建物や芝庭に調和します。また道路や工場内に列植してもよい。

## クチナシ

- アカネ科
- 本州南部、四国、九州、沖縄、中国、インドシナに分布している。
- 東北以南で植栽されている。
- 常緑広葉低木 高さ1～3 m



### (特 徴)

6～7月ころ、香りのよい径5～8 cmの白い花が咲きます。葉は対生で、厚さのある長だ円形。果実が裂開しないので名付けられた。花は芳香を放つ。

### (扱い方の要点)

暖地性の植物なので寒さを嫌う。強い乾燥と寒さを防いでやれば育ちます。土質はあまり選ばないが、半日陰の肥沃な粘質の湿潤地が理想的です。

### (管理と手入れ)

普通は刈り込みは行わないで、とび枝を整理する剪定をします。植え付けは、暖かくなった5～7月が適期です。堆肥、腐葉土などの有機質を十分入れて水ぎめでやや高植えとします。

### (病 虫 害)

さび病、褐斑病が発生するので4月から梅雨頃までダイセン水和剤を2～3回、オオスカシバの幼虫（イモムシ状。）が発生したら捕獲するか、ディプテレックス、スミチオン乳剤で防除します。

### (花つきをよくするコツ)

普通はよく花をつけるが、やせ地や日当たりのよいところでは蕾が落ちてしまうことがあります。条件の悪いところでは適地へ植えかえてやればよい。

### (利 用)

大型種は単植したり生垣状に使われ、切花にも利用できます。矮性種は池の端や低い刈込み、縁どり、列植などに利用します。

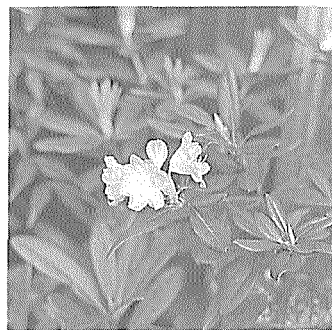
### (その他種類)

- ・ヤエクチナシ 八重種で九州地方に自生しています。
- ・オオヤエクチナシ（ガーデニア） 八重咲の大型花が咲く園芸種。
- ・コクチナシ 中国原産の八重咲で全体に小さい。
- ・ヒメクチナシ 葉が小さく細い。花は小型で八重咲き。鉢植がよい。



## シャクナゲ

- ツツジ科
- ヒマラヤ地方を中心に、北半球に広く分布する。日本では花が7裂するものが中部以南、5裂するものが中部以北に、また高山に育つものや、欧米で交配してつくられた西洋シャクナゲ（ロードデンドロン）が栽培されている。
- 常緑広葉低木 高さ2～3m



### （特徴）

主枝は、幹の下部から株立状。葉は互生、深緑で光沢があり有柄。葉裏は褐色で綿毛が密生する。

花は5～6月、枝の梢に数片集まってつく。花色は淡紅、紅色で5裂の分弁花が咲く。

### （扱い方の要点）

シャクナゲは高山に自生し、栽培にも高度の技術が必要なことから高嶺の花として一般に扱われてきたが、植栽の適した環境をつくってやれば非常に丈夫な花木です。

日本シャクナゲは、陰樹であるが日当たりのよいところでもよく生長します。腐植質で西風が当たらなければなおさらよく、空中湿度の高いところを好みます。

### （管理と手入れ）

植え付けは根が非常に細かく、浅く広く張ります。根元にピートモスカワラを敷き乾燥を防ぐ。植え付け時期は、3月と9～11月がよい。

整枝は、あまり行わず自然に伸ばします。ふところ枝は早目に切り取ります。品種によって花つきに差があり、花つきのよい品種は蕾を適当に落として、花房を大きくしてやります。鉢植えは2～3年目に植え替え、夏はカンレイシヤを冬は株をコモで巻けばよい。

### （花つきをよくするコツ）

日本シャクナゲは、樹勢が弱いため隔年開花になりやすいので、根を肥培して樹勢をつけます。春に太い枝を出させ夏芽、秋芽を伸ばさないようにします。

### （病虫害）

- ・ 褐斑病、葉枯れ病 初夏から秋にかけて、葉に茶褐色または黒褐色の斑点が現れる病気で、マンネブダイセンM水和剤かダコニール水和剤をときどき散布します。夏はマルチングして保護

- もち病

若葉が厚くふくらむ病気で、病葉を焼却する。ダコニール水和剤を散布します。
- 花くされ病

花に斑点がでて腐敗するので花を摘んで焼却します。開花前はジュネブ剤を散布します。
- チャハマキムシ

初夏から晩秋に発生するので、スミチオン乳剤を散布します。
- アブラムシ

オルトラン、ディプテレックス乳剤などで防除する。
- ツツジグンバイムシ

初夏から晩秋まで発生する。スミチオン乳剤を定期的に散布します。

### (西洋シャクナゲの管理)

酸性土で排水のよい土壌を好み、寒風を嫌う。また鉢の土と植栽地の土との違いで根が伸びないことがあります。鉢土に合わせるか、鉢の土を少なくして、鹿沼土、ピートモス、砂による用土をつくって植えるとよい。根元にワラなどによるマルチングをしてやります。また積雪地では枝折れを防ぐために雪囲いも必要です。

### (利 用)

富山の庭には、重要な花木で単植、植え込みの前づけ、池の端などによい。日本シャクナゲは、姿も美しいので鉢植え、盆栽にもよい。西洋シャクナゲは、花が美しいが単調なので、切り花か鉢植えに使われます。

### (種 類)

#### • ホンシャクナゲ

富山、長野、愛知などに分布する。花は紅紫色で花冠は先が7裂する。葉は厚く、基部はくさび型をしています。

葉の裏面は褐色の長い綿毛が生えています。

#### • アズマシャクナゲ

富山から北海道に至る地域に分布し、花冠が5裂し、淡紅色で雄しべが10本ある。葉の裏面に淡褐色の毛があります。

#### • ツクシシャクナゲ

本州中部以南及び九州に分布し、5月に淡紅色の7枚の花をつける。雄しべは14本、枝は太く葉は互生し革質で厚い。裏面は褐色の綿毛があります。

#### • ヤクシマシャクナゲ

屋久島に自生する種で、葉の裏面、葉柄などに毛が他の種類より多い。

#### • ハクサンシャクナゲ

高山に自生する種で、黄橙色の花が咲き、葉の基部は浅いハート形となっている。

#### • ホソバシャクナゲ

愛知、静岡に分布し、葉は細長く、花冠は5裂し、雄しべが10本で淡紅色の花が5月に咲きます。

## ・キバナシャクナゲ

高山のガレキの間に自生し、小型の黄色の花を咲かせる。

## ・西洋シャクナゲ

多くの原種から主に欧米で改良されつくられた園芸種で、白、赤、黄、紫などの花があり、ガクは5裂し雄しべは5～10本。

一般に西洋シャクナゲは、日本原産のものより生長が早く花は大型華麗です。

### Q & A

Q、サツキの鉢植えを植え替えしたい。どのようにしたらよいか。

A、鉢植えは、できれば毎年替えるほうがよいが、少なくとも2～3年に一回は植え替えしましょう。

時期は、花の終わった直後・鉢から掘り上げ、鉢の周囲に張りついている細かい根を、1.5～2cmほど切りつめます。さらに根に付着している用土をくずし、根をほぐして新しい用土に替えます。

植え付ける前には、枝数を半分ほど切り取ります。充実した枝を伸ばし、ふところ枝を間引くように整枝します。

用土は、前に使っていたのと類似したものを使い、根元をよく棒でつき固め水を十分やります。

### Q & A

Q、西洋アジサイ（ハイドランジア）の鉢植えを越冬させて、翌年も咲かせるにはどうすればよいか。

A、花の終わった鉢は、まず花がらを取り除いて、枝を地上から15cm位に切りつめます。鉢は一回り大きくして、腐葉土と土を半々に混ぜた用土に移し替え、室内でも、庭でも、普通の花木と同様に育てます。とくに注意することは、寒い風の当たらないところで管理し、春、暖かいところで十分灌水してやればきれいな花が咲きます。

## ジンチョウゲ

- ジンチョウゲ科
- 中国、台湾原産で、本州、四国、九州に  
植栽されている。
- 常緑広葉低木 高さ1 m内外



### (特 徴)

3月下旬～4月ころ、香りのよい紫紅色又は白の花がかたまって咲く。ガク筒の先が4裂した小花が内面で白い。雌雄異株で日本は雌株が多い。葉は互生し長さ5～10cmで厚い。

香りが強く、名香とされる沈香と丁字にたとえて名付けられた。

### (扱い方の要点)

暖地性の花木ですが耐寒性もあります。日当たりを好み、排水のよい砂壤土がよい。樹勢は強健ですが、比較的場所や土質を選ぶ樹種といえます。風の当たらない暖かい場所で午後日光をさえぎるところがよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは新梢の固まった7月上旬頃が最もよい、植え付けは堆肥を多く入れ、土中の温度を高めるようにして、排水の悪いところは高植えにします。また緑化木でこれほど移植しにくい木はないので、前年から根切りして細根をださせてから行うようにします。

自然に放任しても、小枝を規則正しくだし樹形を整えるのでとくに整枝の必要はない。萌芽力は強いが、一度に強く刈り込むことはあまり好ましくない。刈込みは花の終わったころがよい。

### (花つきをよくするコツ)

普通の生育をしていれば花の咲かないことはない。嫌う場所は、粘質土、やせ地、過湿なところ、アルカリ性土などで、このようなところは避けるか土壌改良をします。

### (病 虫 害)

アブラムシがつくので、マラソン乳剤で防除します。老令化すると白絹病などの土壌菌が発生するので掘り取り、土壌消毒のうえ他のものを植える。

### (利 用)

庭木、鉢仕立てをして花と芳香を楽しめます。切り枝の水揚げもよろしいので切り花もできます。

## マサキ

- 別名 フユシバ
- ニシキギ科
- 北海道中部以南、本州、四国、九州、中国に分布し、富山県にも多く植えられている。
- 常緑広葉大低木 高さ 2 ～ 5 m



### (特 徴)

枝が緑色でやや太く葉は革質で硬く対生し、だ円形で縁に鈍い鋸歯があります。6～7月に緑白色の小花が集まって咲く。果実は12月に熟し3～4裂黄赤色の種子が美しい。

耐陰性が強く、強健で生長が早い。土地を選ばず、潮害、大気汚染に強い。刈り込みに耐えます。

### (扱い方の要点)

植え付けは、新梢発生期の6～8月を除く5～10月までがよい。

土質を選ばないが排水のよい肥沃地がよい。根がよく発達するので植えるときに土と根が十分接触するようにします。

### (管理と手入れ)

刈り込み以外手入れの必要はない。刈り込みは年2～3回行う。ある程度大きくなったら強く刈り込んで樹形を整えます。

### (病 虫 害)

新梢のでるころから梅雨期にかけて、うどんこ病が発生するので、採光、通風をはかり、カラセン水和剤を10日おきに散布します。黒いシャクトリムシが4～5月と8月に発生するのでディプテレックス乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

木が大きくなれば下枝が枯れ上がるので、思い切って切りつめ、新しい芽をださせ、枝を更新します。夏から秋に行くと日焼けを起こして太い枝も枯れますので、春先芽のでる前がよい。

(利 用) 生垣、玉づくり、生花材料など利用面は大きい。

### (その他の種類)

- オオバマサキ 葉が大きく6～5 cmある。
- ギンマサキ 葉の縁に不規則な白斑がある。
- キンマサキ 葉の面に黄斑がある。
- キフクリンマサキ 葉の縁に黄斑がある。



## ヤツデ

- 別名 テングノウチワ
- ウコギ科
- 本州（東北地方を除く。）四国、九州、沖縄に分布する。
- 常緑広葉低木 高さ2.5～5 m



### （特 徴）

株立状になり葉は長い柄があって互生し、大きな手のひら状になり7～9に深く裂けた葉で厚味があります。

適湿地を好み、生長はやや遅いが日陰によく耐え、大気汚染にも強い。

### （扱い方の要点）

植え付けは、5～6月が適期であるが10月頃まで植えることができる。日当たりのよい乾燥地を嫌

い、半日陰の肥沃地を好む。寒さに弱い。

日陰に強く、樹下や建物の日の当たらない場所に適する。

普通の庭には1～2株くらいがよい。

放任しても姿を整えるのでとくに必要

はないが、枝が混みすぎたときは枝抜きをする。狭い庭では枝幹が3～5本くらいが適当です。

また長すぎた場合は、6月頃に適当な長さに切って、萌芽をだして樹形を整えます。12月頃黒色の実がつきますが、枝ともに除去すればよい。

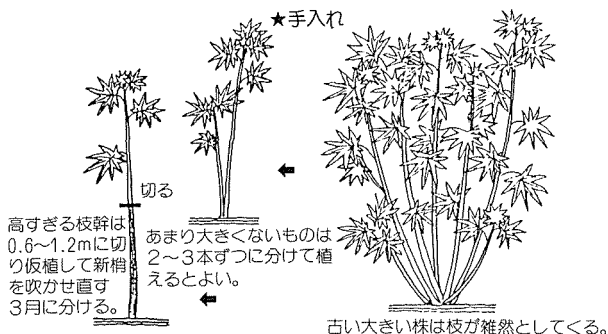
### （病 虫 害）

乾燥のはげしいときはカイガラムシがでやすいので、ふ化後スミチオン乳剤で防除します。

### （育て方のポイント）

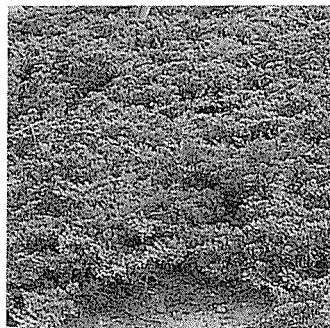
乾燥を嫌うので、地中湿度を高めるために堆肥などを施すとよい。

植え付けのとき、どんなに根がよくても葉が大きくては蒸散が大きいので、葉を落としてやる。また枝が混み広がりすぎるときは、6月頃に上部の葉を全部切ると、その後葉はあまり大きくなりません。



## ハイバクシン

- 別名 イソナレ
- ヒノキ科
- 沓岐、対馬、朝鮮南部の海岸に自生し、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉低木 高さ1～1.5m



### (特 徴)

枝が横にはう低木で、葉は針状をなす。陽樹で日当たりのよい乾燥砂地でよく生育し、潮風に強い。

### (扱い方の要点)

植え付けは盛り土などをして高植えにします。

植え穴には堆肥などの有機質を多めに入れます。

### (管理と手入れ)

刈り込み、枝の整理の必要もなく、ほとんど手がかからない。強く刈り込むと、杉のような葉がでやすいので、強いせん定をさけます。

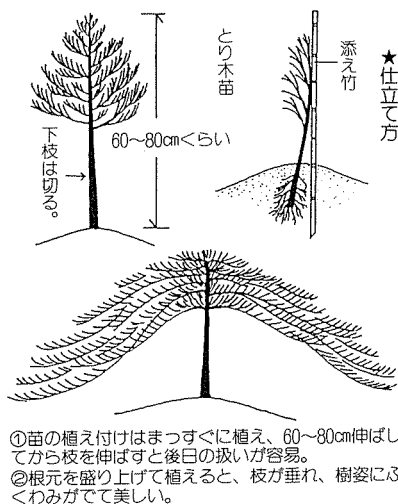
石灰岩地帯を好むので、年に1～2回1握りの石灰をまいてやるとよい。施肥をすれば枝葉が美しくなるので、油粕、鶏糞や化成肥料など

をまいてやるとよい。堆肥、敷ワラをすると根が上がりてくるので、根元はきれいにしておきます。

### (病 虫 害)

さび病とハダニが発生します。

さび病(赤星病)が春から夏にかけて発生するので、3月中旬から10日おきにマンネブダイセンM水和剤を散布し、ボケ、ナシ、カイドウが開花するころ、キノックス600倍液を10日おきに3回ほどやればよい。



### (育て方のポイント)

日当たり、排水のよい所に植えます。植えるときは立てて植え、ある程度の高さになってから枝を張らせると樹形が美しくなります。

### (利 用)

池の端の石組み、庭石に添わせたり、単植して自然に伸ばします。建物の前や塀、門柱の上などの植樹帯に入れてもよい。芝庭の盛土にもよく調和します。

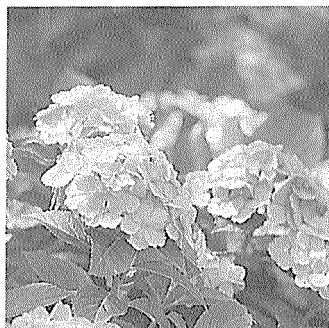
## Q & A

Q、よく咲くキンモクセイであったが、最近花が咲かなくなりました。その対策はどうすればよいか。

A、近年は自動車等の排気ガスによって、キンモクセイの発育が悪くなり、この場合、葉に水を十分かけ葉を洗ってやると開花するようになります。6～7月に雨の多い年は、よく花がつくのも、雨によって亜硫酸ガスが洗われるためと思われます。つまり大気汚染によって開花しなくなったものと思われます。

## アジサイ

- ユキノシタ科
- 日本の在来種であるガクアジサイが、ヨーロッパで改良された園芸種で北海道から沖縄まで、各地に植栽されている。
- 落葉広葉低木 高さ1～2 m



### (特 徴)

6～7月頃、テマリ状の装飾花が、赤、青、赤紫、白など種々の花をつけます。めしべ、おしべが退化して小さい。葉は対生し広卵形で葉縁に鋸歯があります。

### (扱い方の要点)

落葉の低木だが、枝が叢生して大きい株になる。放任しても半円状に樹形を整える。植え場所は有機質に富む肥沃な湿潤地を好み、日陰にもよく育ち、やせ地、乾燥地を嫌います。耐雪、耐寒性もあります。

### (管理と手入れ)

自然に半円形の形をつくるので、特別な樹形づくりは不用です。花芽が今年枝の先端につくので、花後は2～3枝を残して剪定するのが理想的です。

日当たりの強いところ、赤土、砂まじりの土は客土を行い、西日を避けるようにします。

肥料は、化学肥料よりも堆肥、油粕、腐葉土などを根の回りに埋めてやり、敷ワラをしてやるのが効果的です。

### (病 虫 害)

とくに気にするほどのものはない。

### (利 用)

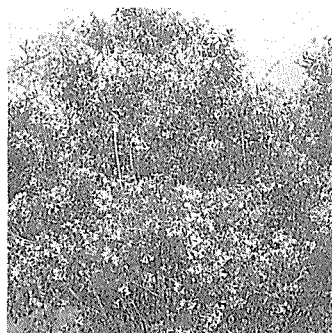
庭木として大きな木の下や池の端、建物の北側などによく植えられています。また生花の材料や、鉢植などにも利用される。

また、県民公園太閤山ランドの、1.6ヘクタールのアジサイの団地は見ごたえがあります。

鉢植には、ハイランドジャという名で市販されています。矮化剤をかけて小さくしたかわいらしいものがあります。

## アベリア

- 別名 ハナソノツクバネウツギ
- スイカズラ科
- 中国原産のアベリアの仲間と交配してできた園芸種
- 常緑または落葉広葉低木 高さ1～3m



### (特 徴)

7～11月まで淡灰白色の小花を咲きつづける。花の形は釣りがね状のかわいい花をつける。大正末期に我が国へ導入され植栽されています。

一般に使われるようになったのは、昭和39年に開催された東京オリンピックのころからです。

土質を選ばず、どんなところでもよく育つ非常に強健な樹木です。新葉と秋の紅葉が美しい。花に香りがあります。

### (管理と手入れ)

植え付けは、半常緑であり4～10月がよい。また樹勢も旺盛で生長も早い。せん定、整枝もできます。狭い場所では切りつめてもよい。

しかし、花は新梢の先端に着くので、新梢が伸びはじめてからは、枝を切らないようにします。従って整枝は11月から翌年3月まで行い、その後は、徒長枝を切る程度でよい。施肥は、やせ地で植え付けるときは堆肥や腐葉土をやりますが、一度活着したら土質が悪くても施肥をしなくてもよい。刈り込みをすればするほど美しくなる。

### (病 虫 害)

とくにない。

### (利 用)

公園などで多く使われています。最近、生垣などにも使われるようになってきました。生長も早く樹形の復元も早いので積雪地帯でも十分利用できます。



## エニシダ

- マメ科
- ヨーロッパ原産で、北海道中部以南に植栽されている。
- 落葉または常緑広葉低木 高さ 1～3 m



### （特 徴）

4～5月頃、鮮やかな黄色の蝶形の花を一杯つける。白花、紅花などの種類がある。生長は極めて早いのが10年程の寿命です。

### （扱い方の要点）

初夏の庭に木全体が黄金をふりかけたように花をつけます。この木は放任すると2～3 mになり、枝が垂れて樹形が乱れます。

日陰に植えると花つきが悪くなります。根はあまりはらないが地上部が大きくなり風で倒れやすいので、風の当たらない場所に植えます。陽樹で多湿を嫌い、排水のよい土がよい。

萌芽力が強く、小枝が多くつくが枝抜きはできないので刈り込んで仕立てる。整枝は花が終わった直後がよい。

### （病 虫 害）

とくにない。

### （花つきをよくするコツ）

日当たりのよいことが絶対条件です。花は前年枝につくので、8月以降に枝を切ると翌年花はつかないので避けるようにします。

### （利 用）

芝庭によく調和します。また潮害に強いので海辺や、工場、道路沿いの植栽に適しています。大気汚染にも強い。

### （その他の種類）

アカバナエニシダ、シロバナエニシダ、ヒメエニシダなどの種類もあります。

## キンシバイ

- オトギリソウ科
- 中国原産で、本州、四国、九州に植栽されている。
- 半常緑広葉低木 高さ0.5～1 m



### （特 徴）

常緑性ですが寒地では一部落葉します。6～7月ごろ、黄色の五弁花がつぎからつぎと咲きます。葉は対生し、卵状長だ円形で葉質は薄い。

### （扱い方の要点）

樹勢強健で大低のところで生育するが、午後の日差しのない方がよい。土質はあまり選ばないが、粘質肥沃な湿潤土がよい。

### （管理と手入れ）

植え付けは4月サクラの咲く頃がよい。有機質の堆肥、鶏糞などをやります。放任しても樹形は乱れないし、とくに大きくならないので剪定の必要もないが、列植などの場合、或一定の高さで切って整えてもよい。

### （病 虫 害）

とくにない。

### （花つきをよくするコツ）

日当たりの悪いところややせ地では花つきが悪いので、日当たりで肥沃なところへ出してやればよい。

小さな株でも2～3年肥培すればよく花をつけます。

### （利 用）

和・洋どちらの庭にも植えられます。芝庭にも調和するし、建物沿いに列植してもおもしろい。

切り花としても利用できます。

## コデマリ

- 別名 スズカケ
- バラ科
- 中国原産で、北海道、本州、四国、九州、に植栽されている。
- 落葉広葉低木 高さ1～2 m



### （特 徴）

4～5月頃、弓なりに長く伸びた枝の上に、半球形の白い花の固まりをいくつも並べてつけます。一つの花は小さい花の多く集まったものです。葉は互生し、長だ円形で長さが2～4 cmの先の尖った葉で裏面はやや白い。

### （扱い方の要点）

樹勢は強健で、大低のところで育ちます。

理想的な場所は、有機質に富んだ肥沃な湿潤地で、午後あまり日の当たらないところが多い。

放任しても樹形を整えるので、とくに整枝の必要はない。枝先がゆるやかに湾曲する性質がある。枝先を切ることは避けたほうがよい。

整枝は、3～4年生の枝を元から切るようにする。

### （病 虫 害）

うどんこ病が春から夏にかけて発生するので、枝を整理して風通しをよくし、花の終わったあと、カラセン水和剤を2～3回散布する。アブラムシが発生したらディプテレックス乳剤を散布します。

### （花つきをよくするコツ）

普通に栽培すれば花がつかないことはない。土質の悪いやせ地や日陰地などが花つきを悪くする。植え替えか客土をして肥培すればよい。8月以降の枝切りは絶対避けましょう。

### （利 用）

庭木として単植より数株の群植、列植が美しい。切り花や、生垣もおもしろく鉢植でもよい。



## シジミバナ

- 別名 コゴメバナ
- バラ科
- 中国中部原産で、我が国全域に植えられている。
- 落葉広葉低木 高さ2m



### (特 徴)

春先に、ユキヤナギに似たやや大きい八重の白い花をたくさんつけます。同属のコデマリより大きく、若枝や花柄に軟毛があります。花期は4月下旬。

日当たりのよい適潤地を好み、生長も早く移植は容易です。大気汚染にも強い。

### (管理と手入れ)

春先きに咲く花は、夏以降枝を切ると花芽を切ることになるので切らないようにします。

枝は上方に向かって伸びるため、多雪では株が乱れるので冬は結束して雪の防止を図ります。

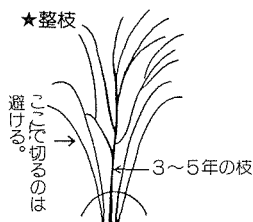
### (病 虫 害)

とくにないが、カイガラムシ、ロウムシがつくので、ブラシで払い落とすか、ディフテックス乳剤を6月下旬から2～3回散布します。

### (利 用)

公園、庭園に単植、列植し、大株仕立にするとよい。

また、生垣にも利用でき、盆栽、生花などにも利用できる。



- 3～5年生の小枝を多く出した枝は根元から切り取り、枝をそろえてやる。
- コデマリは枝先が軟らかく過曲するのが特徴なので、途中から切るのは避ける。

## Q & A

Q、玄関わきの植え込みにタケを植えたいのですが、どんな種類がよいかわかりたい。

A、玄関先では、あまり広い面積がとれないので、モウソウチクなどの大きいものは避けます。

日当たりの良い場所なら、キンメイチク、ギンメイチク、ナリヒヒラタケ、カンチクなど趣きのある渋いものがよい。

タケ類は、地下茎が伸びて、どんなところへでも出てくるので、深さ60～80cmに土管を埋め、その中へ植え込むとむやみに広がらない。

## シモツケ

- 別名 キシモツケ
- バラ科
- 北海道、本州、四国、九州のほか、山地のがれき地に自生する。
- 落葉広葉低木 高さ1～1.5m



### （特 徴）

5～6月頃、淡紅色または白色の五弁の小花を集めて咲き、花弁よりおしべが長い、葉は互生し長だ円形で長さ5～8cmで先が尖り、下面は白い。

樹勢が強健でつくりやすい花木で、日当たりのよい場所の方が樹形をよく整えることができます。やや日陰でも育ちます。

### （管理と手入れ）

樹形は放任しても小枝を密生してよく整えるので、あまり手を加えないでもよい。枝もあまり長くならず、枝先に数十の花房を咲かせるので見事である。樹高を低くしたいときは、花の終わった後に強く切りつめて枝を更新します。

### （病 虫 害）

病害はない。虫害ではアブラムシ、カイガラムシの被害があります。アブラムシは、ディプテレックス乳剤かエストック乳剤を散布します。カイガラムシは、冬期に機械油乳剤か石灰硫黄合剤を散布します。

### （花つきをよくするコツ）

普通栽培で花がつかないことはない。日陰は花つきが悪くなるので、枝を切りつめて日当たりをよくしてやればよい。

### （利 用）

単植、群植どちらでもよいが、他の樹木との混植は避けます。

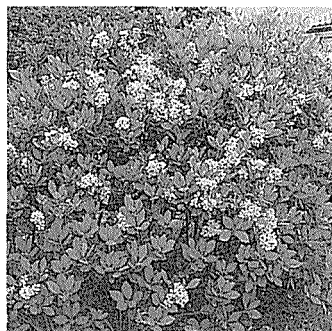
芝庭に円形に仕立てると美しい。

### （その他の種類）

- ・シロバナシモツケ 白花をつける。
- ・サキワケシモツケ 紅花と白花とが混ざって咲く。
- ・コシモツケ（チリメンシモツケ）葉にしわができる。
- ・ホザキノシモツケ 枝の先端に淡紅色の小花が円錐花房をなしてつけます。寒さに強い。

## シャリンバイ

- 別名 タチシャリンバイ
- バラ科
- 本州西部、四国、九州の海辺に自生し、日本海側は山形以南に植えられている。
- 常緑広葉低木 高さ3～5m



### (特徴)

小枝は車輪状にでる。葉は互生し、倒卵型で縁に鋸歯があります。

5月に小さい白い花が円錐花房をなして咲き、果実は径1cmで10月黒紫色に熟す。

植え場所は砂質の肥沃地を好むが、刈り込みは不用です。潮風、大気汚染に強い。

### (管理と手入れ)

枝は規則正しくだし、自然に樹形を整えます。ただ若木のうちには、新梢が長く伸びるので、この芽を摘みとり樹形を整えます。なお、マルバシャリンバイはその限りでない。

新梢の摘みとりは、新梢の出始めたときか、伸びきったときでもよい。施肥は、窒素を多くやると寒さの害がでます。3月始めと9月に化成肥料をバラまきにする。

### (病虫害)

カイガラムシのためすす病が発生するので、6月始めころにスミチオン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

枝はできるだけ切らないこと。樹勢が強くても萌芽力が弱い。

直射日光で葉を傷めるので、乾燥地は、根元に敷ワラをしてやります。

葉が落ちたり、樹勢が弱ったら、根元に堆肥を十分埋め込み、灌水をします。過湿のところを嫌います。

### (利用)

シャリンバイは中高木になるが、マルバシャリンバイは枝が密生し、球形の形をつくるので、芝庭の単植、庭石の根じめ、前つけ、混植、寄せ植えなどにも利用できます。

5月下旬に白い花をいっぱいつけると美しい。黄色、紅色のシャリンバイも出回っている。

## ドウダンツツジ

- ツツジ科
- 本州中部以南、九州に分布している。北海道から九州まで広く植栽されている。
- 落葉広葉低木 高さ 2～6 m



### (特 徴)

幹は多数分枝し葉は茎につき互生している。陽樹でとくに土地を選ばないが、生長が遅い。刈り込みにも耐え、紅葉はとくに美しい。

### (扱い方の要点)

植え付けは、根の伸びる 4 月下旬～5 月下旬と真夏の 7 月中旬～8 月を避ければ年中植えられる。植え付け場所は日当たりのよい肥沃地で排水のよいところが好ましい。植穴を大きく掘り、堆肥、腐葉土をスコップに 2～3 杯入れて、やや高植えにします。

### (管理と手入れ)

仕立て方としては、玉仕立、円錐仕立、生垣、寄せ植等があるが基本形をくずさないように、刈り込みを多くします。遅くなって刈り込むと紅葉がきれいにならない。

### (病 虫 害)

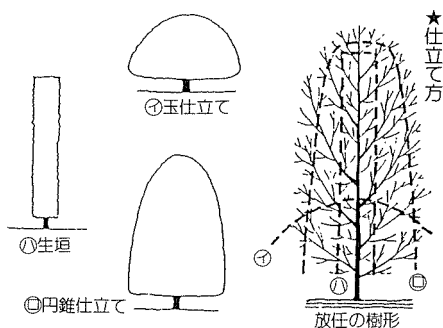
カイガラムシが発生するくらいであり、冬期に、機械油乳剤 30 倍液を散布し、5 月、7 月にデナボン乳剤を散布します。

### (育て方のポイント)

乾燥の激しいところでは、有機質をすき込んで土中湿度を高めてやり、夏期には十分灌水をする。整枝は、表面を軽く刈る程度とします。

### (利 用)

庭では生垣によく使われます。自在に刈り込みができるので、玉仕立、円錐仕立ができます。また、公園や建物の前庭に寄せ植えするとよい。



## ツツジ

- ツツジ科
- 日本および主としてアジア東部に自生する。
- ツツジやサツキは同属の同科で広い意味では同じ仲間です。  
一般にツツジの中にサツキを含んでいます。  
我が国では古くから愛され、人々と生活に密着した花木です。
- 常緑広葉低木 高さ1.0～5.0m



### (特 徴)

ツツジ類は種類が非常に多く、花色も白、桃、紅朱、紫紅、黄などがあり、樹勢もそれぞれ異なっているが、総体的に樹勢は強い。あまり土質を選ばず大抵のところで育ちます。しかしツツジは根が非常に細かく密生しているので、腐植質にも富んだ肥沃な軽い土がよい。粘土質の場合は腐植質を多く入れます。

植え場所は、保水性のある排水のよい酸性土壌（pH4.5～5.5）がよい。また、連作障害があるので、同じ場所に植えるときは土を入れかえるようにします。

### (管理と手入れ)

植えつけは、完熟堆肥やピートモスを入れやや高めに植えます。時期は3月から花の終わった頃と、10～11月だが、常緑のものは年中扱いができます。

ツツジは、とくに整枝の必要はないが、サツキやクルメツツジは、刈り込みものとして使われます。整枝の時期は花の終わった後、できるだけ早く行います。とび枝は発生しだい早めに切ります。

梅雨明けに、ワラか、ピートモスでマルチングをします。

施肥は、普通は行わない。施肥する場合は追肥として花の落ちたあと、梅雨明けと、晩秋に、油粕に化成肥料を等量に混ぜたものを根元にバラまきます。

### (病 虫 害)

いろいろな病虫害があるがほとんど気にならないが、病害では褐斑病は4月、9～10月に発生し、芽に不整形の褐斑がでる。

もち病は4～6月に若葉が肥大し、もち状になる。花ぐされ菌核病はつぼみや花弁が褐色になって腐る。いずれも発生前よりマンネブダイセンM水和剤1000倍液を散布します。

害虫は、グンバイムシ、チャハマキムシ、シンクイムシには、スミチオン乳剤を定期的に散布して駆除します。

夏に発生するアカダニにはマラソン乳剤を散布します。

### (花つきをよくするコツ)

日陰地に植栽しないこと。シンクイムシに食害されないように管理すること。8月以降開花までの間、せん定を絶対やらなければ花の咲かないことはない。

### (利 用)

庭では単植、群植、刈り込みにしてもよく、実に使いやすい花木である。クルメツツジやアザレアなど促成できるものは、暮れから翌年1～2月にかけて切り花や、鉢植えに利用され、サツキは盆栽に仕立てられ古くから楽しまれている。

ツツジは花が美しいばかりでなく樹姿がよいので、公園や庭園にひろく使われています。

### (ツツジの種類)

- ヤマツツジ 北海道、本州、四国、九州に分布する高さ1～3mの半常緑低木。4～5月に赤の花をつけます。白、紫紅、八重咲き品種などがあります。
- キリシマツツジ 霧島山系に自生するヤマツツジの一つの系統から選ばれたものと考えられる。ヤマツツジに比べて夏葉は丸形で小型、葉面に光沢があり、春に花が咲いてから新葉が開きます。花は紅色小輪で多花性。
- クルメツツジ 鹿児島県大隅半島の自生種を、江戸時代久留米で改良が続けられてきたもの。現在300以上の品種があります。花数は多く、花の色彩も鮮やかで、紫赤の濃淡、白、絞りなどがあり、葉は厚く表面に光沢があり、冬は美しく紅葉するものが多い。枝は上伸びます。樹姿は縦長となりやすい。
- ヒラトツツジ 長崎県平戸市に自生種株があることから、地名をとってつけられた大形ツツジの品種群です。現在まで改良されて300品種くらいあります。

高さ1.5m～2m半球状になり、葉は大葉で葉肉が厚く、濃緑で光沢がある。多花性。巨大輪では花径が13cmに達するものがあります。
- サツキツツジ 本州関東以南、四国、九州に分布し、5～7月に紅赤色の径3.5～5cmの花をつけ表面に光沢があり、花が陰暦の5月に咲くので皐月という。

4種類以上の園芸種があり、キリシマツツジに比べて花期が遅く、葉につやがある。
- モチツツジ 静岡県以西と四国に広く分布し、5月上旬ころ、淡紅色、紫色

の径5 cmの花が咲く。ガクは披針形で大きく、花柄につく綿毛には粘りがあり、若枝にも毛が多く、葉の両面に毛が密生します。

- ・リュウキュウツツジ (シロリュウキュウ)

4～5月に径4～5 cmの白花が咲く。

- ・オオムラサキ 紫紅色の径6～7 cm、ヒラトツツジ系統で、最も寒さに強い。

### ◎落葉性のツツジ

ミツバツツジ 本州の関東から近畿に分布し、4月、葉が開く前に紅紫色の径3～4 cmの花が咲き、葉3枚が輪生状につき、葉は菱状広卵形。

レンゲツツジ 北海道中部から九州に分布し、4～6月頃、橙赤色、径5～7 cmの花が咲く。黄色のものもあります。

## Q & A

Q、シラカバが伸び過ぎて困っています。どうすればよいか。

A、枝を切る場合は、枝の付け根から切り、切り口はセメンダインか接ぎロウを塗っておきます。

平地では、20年生くらいになると、枝枯れや、テッポウムシの被害が多くなって枯死するものが多いです。そのため大きくなって枝が枯れるようになったら、小苗と植えかえるくらいに考えたい。

## ナンテン

- メギ科
- 本州の中部以西に自生し、本州、九州、四国に植栽されている。
- 常緑広葉低木 高さ1～3 cm。



### (特 徴)

果実は球形11～12月に赤熟し、円錐状に多数ついて美しい。花は六弁の小さな白花を6月ころ莖の頂に大形の円錐花房をなして咲き、葉は互生し三回羽状複葉で、全体に関節があり、小葉は披針形で長さ3～7 cmです。

### (扱い方の要点)

寒さにやや弱いですが、富山県では植栽可能です。

樹勢は強い。名が難を転じるに通ずることから、縁起物として玄関先によく植えられている。日陰や半日陰でもよく生育するので陰樹として扱われるが、日当りのよい場所は実のつきがよい。土質は粘土質がよい。

### (管理と手入れ)

放任すると丈が高くなり過ぎるので整枝する。庭木としては1.5 mの高さがよい。実をつけた枝は翌年開花しないので、正月前に生花用として切りつめます。細い枝、混み過ぎた枝は適宜切り取ります。冬期間に着花を促すため断根をし、堆肥、鶏糞を入れ、8月下旬に過磷酸石灰をやるとよい。

### (病 虫 害)

カイガラムシのつく程度で病虫害は少ない。

### (花つきをよくするコツ)

日当たりのよいところで、あまり乾燥しないところへ植える。窒素質をおさえ、株を大きくするとよい。

### (利 用)

玄関脇、通用口によく用いられる。鉢植、盆栽にもよい。

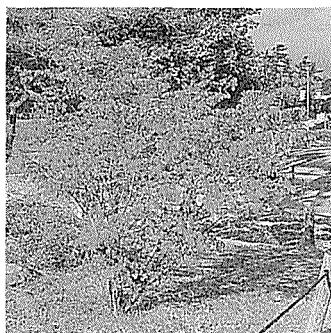
### (その他の種類)

- ・シロナンテン 果実が黄白色
- ・フジナンテン 果実が淡紫色
- ・キンシナンテン 茎が短く、節間がつまり、小葉は細長く糸状
- ・シナナンテン 小葉が卵形で小型



## ニシキギ

- 別名 ヤハズニシキギ
- ニシキギ科
- 日本全土、朝鮮、中国に分布している。
- 落葉広葉低木 高さ 3 m



### (特 徴)

枝は四方に広がり密生します。葉はだ円形で、4月に萌芽し、夏は緑が濃く秋に紅葉し赤い実が美しい。5～6月は黄緑色の花をつける。

土壌は排水のよい肥沃地を好み、耐陰性が強いので、高木の下にも植栽が可能です。枝に翼がついている。

ニシキギは、紅葉のいいもの、翼のあるもの、実つきがよいもの等個体差があるので、株を見分けて栽培します。

### (管理と手入れ)

ニシキギは何といっても紅葉をみる木であり、日当たりのよいことが大切です。木は放任していても形をつくるので、とび枝を整理してやる程度でよい。時期はいつでもよい。

移植は、落葉中がよいが、細根性であり、年中あまり時期をこだわらなくてもよい。

### (病 虫 害)

マユミに準ずる。

### (利 用)

庭木としても珍重され、盆栽、生垣などにも利用され、生花材料としてもよい。

## Q & A

Q、山へ行くとモミジの小苗をよく見かけるが、庭へそのまま植えても育ちますか。

A、山へ行くと、モミジの大木の下に小苗がよく生育しています。小さな苗なら、ぬらしたちり紙に包んで持ち帰り、庭に植えます。植え付け後1週間ほど、強い日に当てないようにして、毎日灌水すればほとんど活着します。

# ハギ

- 別名 ヤマハギ
- マメ科
- 北海道、本州、九州の山野に自生する。
- 秋の代表的な花で、秋の七草の一つです。
- 落葉広葉低木 高さ 2～2.5m



## (特徴)

8～9月にかけて、紅紫色の蝶形花を枝いっぱいつけて美しい。葉は互生し、葉が3枚の複葉で、長さ1.5～4cmの広だ円形、裏面に綿毛があります。

## (扱い方の要点)

樹勢が強く扱いやすい木です。腐植質に富んだ肥沃な日当たりのよい場所を好み、やや日陰でも育ちます。

## (管理と手入れ)

植え付けは萌芽期間中がよい。寒さには強いが、地中の芽出しが早いので、春は早目に植え付けたい。

枝を切らないでおくと、大きくなりすぎ見苦しくなるので、毎年秋から春にかけて地上部を切って、新枝を伸ばすようにします。

## (花つきをよくするコツ)

伸びた新梢を切らないこと。日陰は花つきが悪くなります。

## (病虫害)

アブラムシがつくので発生したら、マラソン乳剤を散布します。

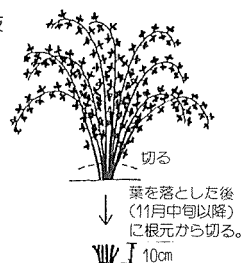
## (利用)

庭では単植がよい。広い庭では大株仕立ても見事です。芝庭にもよく合います。列植、群植は株間を十分離した方が美しく仕上がります。

## (その他の種類)

- ・ミヤギノハギ 根元から株立状になり枝は垂れる。花は赤、白花が多くつくので見ごたえがある。葉先が尖っています。
- ・ヤクシマハギ 淡紅紫色の花をつけ、葉が小さい。鉢植えによい。

★整枝



## ハクチョウゲ

- アカネ科
- 沖縄、台湾に自生。東西南部以南、四国、九州などに植栽されている。
- 常緑広葉低木 高さ1 m



### (特徴)

枝は細く密生し、葉は小さい。初夏のころ小さな白色六弁花をつけます。花期は5～6月。葉は革質で濃緑色。

### (管理と手入れ)

樹勢も強く、病虫害にも強く、日当たりを好むが、半日陰でも育つ。土質としては腐植質のある適潤な肥沃土がよい。

### (育て方のポイント)

枝の伸長が早いため、形がくずれるので刈り込みをくりかえし行う。刈り込みを続けてゆくと、葉が小さくなって揃ってくる。

### (病虫害)

とくにない。

### (利用)

低い生垣によい木です。また花壇の縁取りや寄せ植えにも適し、円形仕立して玉物にしてもよい。

原種より、葉の縁に白い縁取りの入ったフイリハクチョウゲの方がよく使われます。

## ボケ

- バラ科
- 中国原産だが、日本には平安時代に入り、本州、四国、九州などに植栽されている。
- 落葉低木 高さ2～3m



### (特 徴)

4～5月ごろ、赤または白色の径3cmの五弁花が咲く。果実は円形で大きく7～8月に黄色に熟す。小枝にはトゲがあり、葉は互生し、縁に鋸歯があります。

### (扱い方の要点)

樹勢は強く土質をあまり選ばないが肥沃な日当たりのよいところがよい。植え付けは9～11月に堆肥を十分に入れて、根元に敷ワラをして乾燥を防ぎます。

### (管理と手入れ)

放任すると枝が乱れるので、秋から冬にかけて強いせん定をします。11月以降花芽がはっきりしてから、花芽を残して切りつめ、好みの形に仕立てます。

### (花つきをよくするコツ)

夏に枝をきると花芽となるべき芽が葉芽となって伸びてしまいます。せん定は夏にやらないことが大切です。

日陰に植えたり、夏乾燥が続くと花芽がつきにくいので、敷ワラをして、灌水を十分することが大切です。

### (病 虫 害)

ボケは根にがんしゅ病（根に大豆大のコブができる。）ができやすく、重症ならば抜いて焼却し、軽症なら切口に石灰硫黄合剤を塗っておきます。発生した場所には3～4年間ボタン、サクラなどこの病気にかかりやすいものは植えないようにします。

(利 用) 庭に単植として大株にするとよい。ほかに鉢植え、盆栽、切り花、生垣にもなります。

### (その他の種類)

- ・ヒボケ 花が朱紅色。
- ・シロボケ 花が純白色。

園芸種としては、

- ・トウヨウニシキ 紅白咲き分ける大輪種。
- ・チョウジュラク 朱紅色の八重大輪。樹勢が強い。
- ・オオヤンマ 乳白色の八重大輪種。
- ・キンジシ 朱紅色の一重、ときに半八重大輪。樹勢強い。

## ボタン

- キンボウゲ科
- 中国原産で、我が国に古くから広く植栽されている。
- 百花の王と称賛される。
- 落葉広葉低木 高さ1～2 m



### (特 徴)

5月ごろ、径約20cmにもなる美しい花を開く。花弁は7～9枚で縁に不規則な歯芽がある。葉は互生し、大型で卵形で先が2～3裂し、下面は帯白色である。

世界中で古くから改良され多数の園芸種があり、花色も紫、紅、淡紅、白、黄などがあり、一重、八重、千重咲きなどがあります。

### (扱い方の要点)

樹勢は割合強い。条件がよければ長年生育します。

土質は、腐植質に富んだ肥沃な砂壤土または粘質土がよく、風の当たらない日なたがよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは10～11月がよい。完熟堆肥や腐葉土、鶏糞などを入れます。根に直接堆肥などがさわらないようにし、高植えにします。

整枝は、とくに行うことはないが、放任すると小枝が密生して通風、採光が悪くなる。整枝するときは、花芽は充実枝の先につけるので、太い枝は大切にし、細い枝や混みすぎた枝は根元から整理します。整枝は11～12月に行います。

施肥は、冬期間に堆肥、腐葉土、鶏糞などを根元に埋め込みます。花の終わった直後と9月に、窒素分の少ない化成肥料をバラまきます。骨粉を5～9月に一握りずつ根元にばらまきます。

### (病 虫 害)

土壌線虫の被害を受けると、葉が萎縮したり、葉脈に黄白色の斑がでたりするので、植える前に土壌消毒をすればよい。これをしなかった場合はネマナックス粒剤を散布します。

アブラムシは、4月～9月まで発生しエストックか、ディプテレックス乳剤を、カイガラムシには冬期間石灰硫黄合剤を、6月下旬ころにデナボン乳剤を2～3回散布します。

### (花つきをよくするコツ)

春に植えないこと。枝先をむやみに切らないこと。日陰や湿地に植えないように気をつけ、日当たりや排水のよい肥沃地に植えるとよい。

ボタンは接ぎ木でふやすし、ボタン台とシャクヤク台がある。シャクヤク台の場合は短命なので、深植えしてボタンから根を出させるようにします。

### (利 用)

広い場所に単植するのがよい。数本植える場合は株間を1.5mくらい離して植える。また鉢植の場合は花、葉とも大きいので大きい鉢を使って調和をはかるとよい。

## Q & A

Q、ボタンの根元から出てきた新芽は、株分けしてもよいか。また分ける芽の見分け方をどうすればよいか。

A、ボタンは、ボタン台とシャクヤク台とに接木して苗木はつくられます。どちらの台かを見分けることです。ボタンの台の芽は、淡紅色で葉の切り込みが多いので区別がつけます。

シャクヤク台の芽を伸ばすと、ボタンが枯れますので切り取ります。ボタン台からでる芽も取り除きます。

台木でないところから出た芽は、大株ならば9月上旬に株分けできます。

## マユミ

- 別名 ヤマニシキギ
- ニシキギ科
- 北海道から九州まで分布している。
- 落葉広葉低木 高さ2～8m
- マユミの名は弓の木ということから名付けられたものです。



### (特 徴)

紅葉も美しいが、実をたくさんつけた様はなお美しい。果実はやや四角形で径1cm位、9～10月ころ紅色に熟し、仮種子が4裂して赤い種子を露出します。雌雄異株。5～6月ころ淡緑色の径8mmくらいの四弁花が枝の下部に咲きます。葉は対生し長だ円形で長さ5～12cm。縁に低い鋸歯があり、両面はほとんど無毛です。

### (扱い方の要点)

樹勢が強く、やせ地でもよく生育します。マユミは紅葉をみる木でないので半日陰でもよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは落葉期に行います。放任してもある程度の樹形を保つので、整枝の必要もないが、とび枝や多少の枝抜きを落葉期に行う。土壌は排水のよい腐植に富んだ湿潤地がよいので、土中湿度を高めるため堆肥、腐葉土を入れ夏期に敷ワラを行います。

### (病 虫 害)

とくにない。

### (実つきをよくするコツ)

マユミは個体差が大きく実つき、葉の色などに差があるので、実つきのよい、色の美しいものを選んで植えるようにします。日当たりの悪いところは実つきが悪く、根元を乾燥させると実どまりが悪くなります。また、むやみに枝を切らず、とくに長く伸びたものを切るとよい。

### (利 用)

盆栽や鉢植えに利用されることが多い。盆栽は幹を根元から切り萌芽させ、丈を低く仕立てます。

庭では、植え込みの前づけや、大株の単植がよい。

## ムラサキシキブ

- 別名 ヤマムラサキ
- クマツツ科
- 北海道南部から沖縄、台湾、中国に分布し、広く植栽されている。
- 落葉広葉低木 高さ2～3m



### (特徴)

秋が深まるころ紫色の小さな実がたくさんついて美しい。

果実は、径3mmの小さな核果が集散状に集まってつき、11月頃に紫色に熟します。花は6～7月ころ淡紫色の小花を多くつけます。葉は対生し、長だ円形で長さ6～12cmで縁に鋸歯があります。

### (扱い方の要点)

紫色のつやのある小枝は野趣に富み秋の庭木といえます。樹勢は強く、乾燥を嫌い腐植質に富んだ湿潤地を好みます。

植え付けは、3月から4月がよく、植穴に腐植質のものを十分入れ土中湿度を高くしてやるとよい。

### (管理と手入れ)

とくに整枝の必要はないが、茂りすぎることもあるので枝すかしをします。枝すかしは途中から切らず根元から切って、自然に垂れ下がるような樹形にします。

### (病虫害)

とくにない。

### (花つきをよくするコツ)

乾くところや、大きな木の影では枝が軟弱になり花つきが悪くなります。また花芽は前年に枝につくので、秋以降の剪定は花芽を落とすので絶対避けます。

### (利用)

茶庭、池の端などによく、和風の庭によく似合う。そのほか鉢植、盆栽によい。また小鳥もこの実を好んで食するので、給餌木としての利用もよい。



## ヤマブキ

- バラ科
- 北海道、本州、四国、九州、朝鮮などに分布してゐる。
- 落葉広葉低木 高さ1～2 m



### (特徴)

4～5月ころ、新葉とともに黄色五弁の花をつける。花径3～5 cmの花を小枝の先につけます。花は広だ円形。枝は緑色で細く、葉は互生して卵形、長さ3～7 cmで葉質は薄く、先が尖り、縁には重鋸歯があります。古茎は数年で褐色となり枯死する。

### (扱い方の要点)

樹勢はあまり強いとはいえませんが、適地であればみごとに生育します。山間の谷川沿いの湿ったところに、見事な群生をみます。このことから、半日陰の肥沃な適潤地がよい。

庭木としては、高木の下木として植えることが多いが、常緑樹より落葉樹の下がよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは10～11月、3月がよいが、地上部を切って植えればいつでもよい。元肥に堆肥、腐葉土を入れて高植えにします。根元に地下茎枝を多数発生するので、早目に切り取ります。

枝は古くても花をつけるが、3～4年に1回は枝を強く切りつめて、株の更新を図った方がよい。

### (病虫害)

とくになし。

### (花つきをよくするコツ)

日当たりや、やせ地は花つきが悪いので、土壤改良か移植をします。7月以降の剪定は、萌芽の形成に悪影響があるので避けたい。

### (ふやし方)

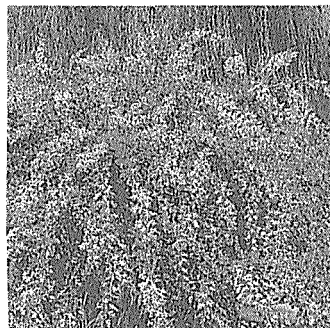
ヤマブキは挿し木、株分け、シロヤマブキは種子を取りまきにします。2～3年で花がみられます。

### (利用)

庭木として単植、群植、下木、前付けなどに用いられます。水辺、斜面によい。生垣にもよく、一部切花としても利用されます。

## ユキヤナギ

- バラ科
- 本州中部以南、四国、九州などに分布している。
- 落葉低木 高さ1～2m



### （特 徴）

春垂れ下がった枝に、白い花が雪が積もったよう叢生した小枝に、白色五弁花が咲き、枝全体が花の穂になって美しい。枝は弓形にやや垂れ葉は互生し、長さ2～3cmの披針形で縁に細鋸歯があります。

### （扱い方の要点）

樹勢は強く、あまり土質を選ばないが、日当たりと排水のよい有機質に富んだ肥沃土がよい。

### （管理と手入れ）

植え付けは10～11月、3月がよく、堆肥や落葉を入れ高植えとします。

放任しても樹形を整えるが、古い株は花後に更新してやるとよい。また樹形を小さくする場合は、花の終わった直後に根元から切り新梢をださせます。この場合は、生長期間中であり断根を行い肥培をします。

### （病 虫 害）

うどんこ病が発生したらカラセン水和剤を散布する。通風、採光をよくすればある程度防げます。

アブラムシがつけばエストックかディプテレックス乳剤を散布します。

### （花つきをよくするコツ）

環境に合わないとい花つきが悪くなるので、日当りのよい適地に移してやりたい。また夏以降の剪定は花芽を切るので行わない。

### （利 用）

公園や道路に列植や群植すると見事です。芝庭、池の端、前付けなどにもよい。古くから切花にも利用されています。

## ライラック

- 別名 ムラサキハシドイ、リラ
- モクセイ科
- ヨーロッパ原産で、北海道、本州、四国、九州に植栽されている。
- 落葉広葉小高木 高さ1～7m



### (特 徴)

4～5月ころ、枝先に狭い円錐花房をなして多数の紫色などの小花が咲き、香気があります。花冠は長さ1cmの細長い筒状で先が4裂し平開する。葉は対生し、やや三角状の広卵形で長さ5～10cm。

花色は白、淡紫色で一重、八重があります。

### (扱い方の要点)

ライラックは暑さに弱いとされているが、園芸種で耐暑性のものもあります。

植え場所は、肥沃な排水のよい粘土質がよく、単植や群植がよい。他の木との混植を避けるようにします。

植え付け時期は11月から翌年3月中に、接ぎ木苗は半分くらいに切りつめ高植えとします。

### (管理と手入)

放任しても樹形を整えるが、花が小枝の先端につくので、3～4年に1回強いせん定をして樹形を整えてやります。枯れ枝、細枝、からみ枝などは冬期間に切り取ります。枝を少なくした方が花房が大きくなります。強い剪定は花後にします。

施肥は冬期間に鶏糞をスコップに1～2杯埋め込み、花後の5～6月と9月に一～二握りほどの化成肥料をバラまきます。

### (病 虫 害)

こうやく病が発生します。カイガラムシの分泌物に胞子が付着してつくので、カイガラムシの防除をします。

テツポウムシは根元をきれいにし、もしも侵入したらスミチオン乳剤原液を穴の中へ入れて穴をふさぐとよい。

### (花つきをよくするコツ)

咲き始めるとその後はよく花をつけます。

日陰は避け、太い短い充実した枝を多く出させるように肥培します。花は枝先につけるので、7月以降の枝切りは避けます。

## (利 用)

庭木として多く利用されているが、鉢植、切り花にも利用されます。

## (種 類)

- トラゲン 灰紫色で花は大きくないが、花つきがよい。
- マダム、レイモン 白色八重咲きで花房が大きく、やや立條性。
- チャーレス・ジョリー 紫紅色八重咲き、枝は細く、花は中くらい。

## Q & A

Q、ドウダンツツジの生垣をつくりたいのですが、植え方と間隔をどうすればよいか。

A、苗木は、高さ、60cm内外のものを、1 m 当たり 3 本の計算で用意します。

植付時期は、雪どけ直後がよい。外側が公道の場合は、境界より、30cmほど内側に植えます。これは生長すれば枝巾が40cmほどの枝張りに仕上がるためです。

ドウダンツツジは、紅葉が美しいので、9月にせん定をすれば紅葉がきれいになります。花を目的とするのならば9月せん定をやめます。

## レンギョウ

- モクセイ科
- 中国原産で、北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 半つる性落葉低木 高さ 2～3 m



### (特 徴)

3～4月に葉のする前に黄色の花が咲きます。枝は長く弓状に伸び地上につくと発根します。ズイは中空です。葉は対生し卵形。長さ4～8 cm上半分鋸歯があります。

### (扱い方の要点)

樹勢も強く、耐暑、耐寒性もあり、大抵のところでは育ちますが、日陰を嫌います。日当たりのよい肥沃地がよい。

植え付けは、10月から翌年3月まで植え付けられる。堆肥を十分入れ、高植えにします。

### (管理と手入れ)

放任すると枝を四方へ出してからみ合うので、1 m位の幹を立て、そこから枝を伸ばすように樹形をつくります。

レンギョウのうちでも、枝が細く長く伸びるものをツルレンギョウといいます。放っておくと幹が地をはうので、支柱を立てて誘引します。チョウセンレンギョウは、大きく湾曲する枝を叢生するので円形刈り込みがよい。

整枝は、冬期間と花後がよい。冬のせん定は花芽を切るので間引く程度とします。強いせん定は花後に行う。

### (病 虫 害)

カイガラムシがいくらか発生する程度です。多発したときは、花後根元から切り取り焼却します。

### (利 用)

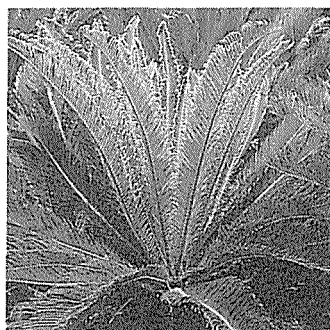
庭木として、日当たりのよい場所に単植か列植し、生垣、玉仕立や幹を立てたスタンド仕立てもよい。

### (種 類)

- ・シナレンギョウ 黄色の花が下向きで、やや花が小さく、開花期はやや遅い。葉は狭だ円形。
- ・チョウセンレンギョウ 花は大きく、花色はやや紅みがかった黄色、ズイに小さな仕切りがたくさんあります。

## ソテツ

- ソテツ科
- 九州南部、沖縄、中国などに分布している。
- 関東以南の暖地に植栽されている。
- 常緑広葉小高木 高さ3～7m



## (特 徴)

茎は太い円柱形で、茎全面に葉の落ちた跡があります。葉は大型の羽状複葉で、茎に集まってついています。葉質は硬く、線形をしています。雌雄異株。花は8月に開花し、雄花は円柱状に直立し、雌花は球状に集まり黄褐色の毛が密生しています。

湿地を嫌い、日当たりの良い乾燥地を好む。また、寒地に弱く、暖地に良く育つ。潮風に強く、大気汚染にも強い。生長が遅く、寒さに弱い。

## (扱い方の要点)

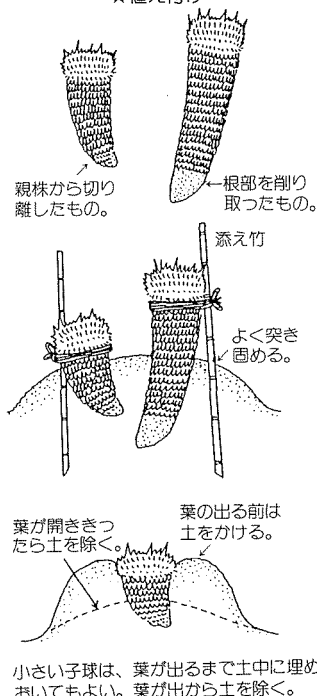
暖地系の植物であり、植え付けも暖かくなった5～9月がよい。混植を避け単植にします。

植え付けは、穴を大きめに掘り、堆肥や鶏糞をスコップ1杯入れ、土を10cmほど入れ、よく踏み固めた上にソテツを立てて、さらに土を入れ突き棒でよく突き固める。排水のよい場所でも30～50cmくらい高植えにします。植え付け後は支柱をして倒伏を防ぎます。灌水は植え付けの時だけでよい。

## (管理と手入れ)

剪定、整枝の必要がなく、初夏に新しい葉が出たら古い葉を切ります。冬は防寒を要するのでワラ、コモで包むが、葉を全部切ったほうが寒さに強い。

## ★植え付け



### （病 虫 害）

とくにない。

### （育て方のポイント）

過湿によって根ぐされが起きた場合、腐った部分をナイフで切り取り、葉を落として2～3日後切り口が乾いてから植え直す。

### （利 用）

庭に単植がよい。一本ではさびしいので大小数本組み合わせて植えます。芝庭や洋風建築にもよく調和します。鉢植や、生け花にも使えます。

## バラ

- バラ科
- 北半球の温帯や亜寒帯に100～200種が分布し、日本でも十数種類があります。
- 半常緑または落葉つる性低木
- 5000年前の昔から栽培され、交配を繰り返してすばらしい花がつくり出され「花の女王」とまで呼ばれ、その種類が数千種といわれます。



### (特 徴)

品種が多く環境や管理の状態にもよるが、総体的に樹勢は強いとみてよい。栽培は、日当たりのよいところで腐植に富んだ粘質土壌がよい。しかし、軽い土でも管理しだいでよく育ちます。

植栽は他の樹木との混植を避け、同じ種類を数本まとめて植えた方がよい。

### (管理と手入れ)

植穴は大きく掘り、完熟堆肥、鶏糞、落葉などを多く入れ高植にし、根元に敷ワラをして保護します。

植え付けは、芽の動きが早いのでできるだけ春先早く植えるようにします。

種類によって、一季咲きのものと四季咲きのものがある。整枝はその違いによって差がある。一季咲きは、今年伸びた枝の先端に花をつけるのでとくに問題はない。四季咲きは、花が終わったらすぐ整枝します。

強いせん定は冬期間行い、花後のせん定は、小葉の5枚の葉の上で切る程度でよい。

### (施 肥)

よい花をつけるポイントは、施肥と薬剤散布であるといわれるくらい肥料を要求します。元肥とともに追肥として、6月と8月に油粕と化成肥料を等量混ぜたものを二～三握りバラまきをします。

### (病 虫 害)

- ・うどんこ病 春から秋にかけて、カラセン水和剤を7～10日おきに散布します。
- ・炭そ病、黒星病 葉に黒褐色の斑点ができる病気で、病葉は焼却し、ダイセンステンレス水和剤、マンネブ剤などを一週間おきに散布します。
- ・カイガラムシ 冬期間に石灰硫黄合剤を2～3回、または、6月、8～9月



にデナボン乳剤を散布します。

- ・アブラムシ マラソン乳剤やエストック乳剤などを散布します。

### (花つきをよくするコツ)

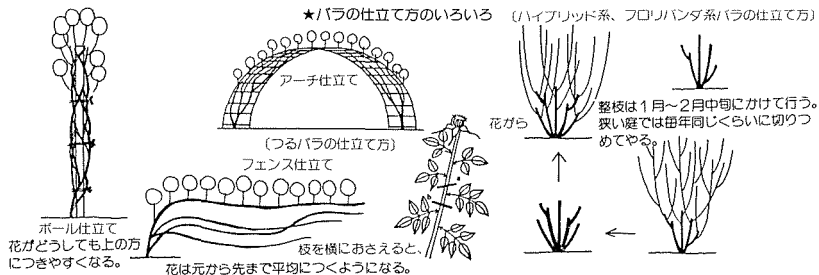
施肥と病虫害の防除を行います。放任すると花つきが悪くなります。また日当たりをよくしてやりましょう。

整枝は、小枝を切り充実した枝を残すようにします。

### (利 用)

庭では、広いところに単植するか群植すると美しい。芝庭によく調和します。つるバラは垣根に仕立てたり金網のフェンスにからませるとよい。その他、ポール仕立て、アーチ仕立などもできます。

鉢植えもよく、切花にも多く利用されます。



### (種 類)

バラは、バラ属のものを総称してバラと称しており、一般には西洋バラをさす場合が多い。

- ・ノイバラ 日本在来で、5～6月に白い五弁花をつけます。
- ・サンショウバラ 静岡県に多く自生し、淡紅色一重の花を5～6月につけます。
- ・ハマナス 本州中部以北の海岸砂地に生え、6～8月に紅色の五弁花をつけて、枝にトゲが密生します。
- ・セイヨウバラ 雑種性の園芸種で数千種があり、つるバラと木バラがあり、一季咲きと四季咲きがあり、花色、花の大小など変化に富んでいます。

## フジ

- 別名 ノダフジ、ムラサキフジ、ヤマフジ
- マメ科
- 本州、四国、九州の山野に自生する。
- つる性落葉低木



### (特 徴)

4～5月ごろ、下垂した長さ30～60cmの総状花房をなして、淡紫色の蝶形花をつけます。つるは右巻きになり、葉は互生し、卵状長だ円形で若葉のとき毛があります。花は、房が長く下垂し30～90cmになる。

### (扱い方の要点)

樹勢は、極めて強く、刈り込みも自由にできます。

土質は肥沃な粘土質で湿潤地を好む。日当たりのよいところか、半日陰がよい。

### (管理と手入れ)

植え付けは、落葉期間中ならいつでもよい。植え穴は大きめに掘り、堆肥、落葉などを入れ高植えにする。なお、フジの根の掘り幅は、先端まで丁寧に掘って根を巻いて植えるようにします。

フジの花は、前生枝の短枝に花芽ができます。花が咲けば花房の元の部分にもつきます。春から夏にかけて伸びたつるは切らずにおき、11月以降に整枝をします。徒長枝や混んだ小枝も取り、採光通風をよくしてやります。

### (花つきをよくするコツ)

花がつかないのは栄養生長が旺盛なためです。そのときは断根して窒素成分をおさえ、リン酸、カリなどを施し、大枝を抜いてやれば花がつきます。

### (病 虫 害)

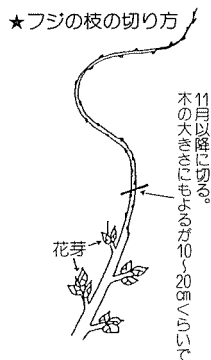
とくにない。

### (利 用)

棚仕立てが一般的であるが、空地や軒先に仕立ててもおもしろい。切り花、盆栽も可能です。

### (その他の種類)

- ・シロハナフジ 純白色の花をつけます。
- ・アケボノフジ 淡桃白色の花をつけます。



- ・シダナガフジ 花穂が長さ1 m 以上になります。
- ・一歳フジ 幼木で開花し、花穂は30cm くらいになります。
- ・ヤエフジ 花が八重咲きになります。

## Q & A

Q、日陰に生えるゼニゴケは、どうしたら退治できるか。

A、名前がよいが、このコケが庭にべったり生えると、みにくく気持ちの悪いものです。

蘚苔類は、日陰で排水の悪いところに必ず生えてきます。

繁殖力は極めて強く、一生懸命削ってもまた生えてきます。鉢物をもつ人には全く困った雑草です。

これを退治するには、食酢がよいでしょう。筆や、ボロキレに食酢を染み込ませ、ゼニゴケの表面から拭いてやれば1～2日で黒変します。周囲に影響がなかったら、熱湯をかけるのも一つの方法です。薬剤もあります。

